

セイフティ・グリップ  
(ゴムチップ舗装材)  
施工要領書



株式会社 オール

## 1. 行程作業および検査

### 1—1 下地

セイフティ・グリップを施工する下地は、次の条件を満たすものとする。  
それ以外については関係者が協議し決定する。

#### 1—1—1 アスファルトコンクリート下地

種類 粗粒あるいは密粒度アスファルトコンクリートで冷えないうちに打設され重機で十分に転圧されたもの。  
開粒度アスファルトコンクリートについては十分に強度があると認められたもの。  
アスファルト舗装後、**7日以上経過**した下地であること。

厚み 40.0mm以上で、道路と同様に凍上抑制層が設けられていること。

#### 1—1—2 コンクリートあるいはモルタル下地

種類 歩行や必要車両の走行に十分耐える強度を有するコンクリートあるいはモルタルであること。

厚み 50.0mm以上であること。

養生 十分乾燥され水分計にて10%以下であること。

### 1—2 材料受入

工事に必要な数量の材料を受入れる

### 1—3 材料保管

工事材料は適切な場所に保管し、事前に数量をチェックし、雨水、雪等で濡れない様に保管する。

## 2. 施工

2—1 下地の清掃をする。

2—2 下地の凹凸部を削り落とし、砂、塵等セイフティ・グリップの接着を阻害するものを取り除く。

2—3 客先と事前打ち合わせをし、下地の状況・施工手順・養生期間・保管場所・冬季の場合は特に現場の養生の仕方等を互いに十分協議してから施工する。

## 3. プライマー

### 3—1 プライマー塗布

アスファルトコンクリート下地、コンクリート、モルタル下地の場合は、セイフティ・グリッププライマーを使用する。  
塗布量は0.18kg/m<sup>2</sup>である。(17kg/缶入り)  
プライマーのタックのある間に次の工程を行う。

### 3—2 プライマー検査

プライマー液だまりがないか、塗り残しはないか、硬化が進みすぎタックフリーになった部分がないか、確認をおこない多すぎる部分は拭き取り足りない部分は塗り足す。

## 4. 主材料混練

### 4—1 配合比

セイフティ・グリップ工事作業基準に規定する攪拌機にて所定の量の混合を行う。  
各種セイフティ・グリップの荷姿を表—1に示す。

表—1

	荷姿
ゴムチップ (黒)	20.0kg/袋
ゴムチップ (カラー各色)	20.0kg/袋
バインダー	9.0kg/缶
プライマー	17.0kg/缶

※カラーチップは18色ありますので、色サンプルで環境にあった色を選定してください。

### 4—2 混練順序

- 1 ゴムチップ (20.0kg/袋)
- 2 顔料 (必要に応じ使用)
- 3 セイフティ・グリップバインダー (9.0kg/缶)

### 4—3 混練時間

工事作業基準に基づき十分に混練し速やかに取り出す。同一現場では一定サイクルで作業を行う事が望ましい。

### 4—4 混練状態

ダンゴ状ののかたまりがなく、均一な色で均質であること。

### 4—5 混練物の払い出し

混練後速やかに一度取り出す。ただし、押し固めたりしないこと。

### 4—6 敷き拡げ及び敷き均し

混練物を所定の範囲へ均一に拡げる。

### 4—7 転 圧

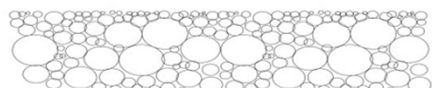
セイフティ・グリップ工事作業基準に規定するヒートローラーを十分に加熱し、4—6で均した混練物の表面を十分に圧縮する。

## 5. 仕 上 げ

歩経路の両端を一定形状に成形し、2-3の協議した通りに端部を納める。  
各バッチ、材料の混練完了より30分以内に仕上げる。(天候により前後する)  
コテ、フニッシャーを用いて表面のゴムチップに粗密がなく、かつ、ゴムチップ  
の平面表面に配列するように均す。  
同じ手順で作業を行い、色むらをつくらないようにする。

図—1

よい例



悪い例



**※表面の平滑さ及び密度にむらをつくらないように注意する**

## 6. 検 査

5の仕上げの時間内に平滑さ、巾、チップの粗密、ひび割れ、厚みに不具合がないか  
チェックし、不具合箇所は速やかに修正する。  
厚みは、午前、午後の作業開始の施工について、客先と打ち合わせをし、厚み、場所を確認する。

## 7. 養 生

作業後、人の歩行、車両の進入の無いように養生を行う。  
養生期間は、夏季3日以上、冬季4日以上とする。特に冬の養生は元請と十分に打ち合わせをすること。

## 8. 完成検査

計画の面積に積算量の材料を使用していること。  
打ち合わせ通りの施工がされていること。  
表面は平滑で傷の無いこと。  
しっかり硬化し、スポーツシューズで歩行できること

以上を確認する。  
ただし、硬化の確認については前日施工部分あるいは当日前半の施工部分をチェックし  
約束の期日に歩行可能であることが推定できる場合、これを硬化の確認に替える。

以 上





